

ゼミ活動報告 「第二回大阪インテレクチュアルバー」

齋藤聖矢

2017年12月12日に第二回目の大阪インテレクチュアルバーが梅田で開催されました。今回のテーマは「企業のCSR活動」ということで、近年重要性が増してきているCSR活動について楽しく食べ飲みしながら議論しました。

そもそもCSR活動とは何なのでしょう。企業の社会的責任と言われますが、誰のためになっているのでしょうか。そんなシンプルで、しかし奥深い疑問に答えてくださったのが宮川先生のプレゼンでした。コーポレートファイナンスからみたCSRの意義とは「資産の源泉である財市場の環境を整備する」ことで、最終的には企業に



還元される活動であるということでした。これには参加者の方々も納得されている様子で、私自身目から鱗が落ちたようでした。

実際に企業で行われているCSR活動を紹介してくださったのが、NISSHA株式会社の谷口さんです。谷口さんによるとNISSHAを始め、いくつかの企業ではCSR活動を評価するためにEICCという国際基準が取り入れられているそうです。このEICCを満たすためには監査にクリアしなければならず、細部まで厳しく決まりがあります。谷口さんはこれをクリアして初めて、グローバルスタンダードたり得るとおっしゃっていました。しかし一方で、CSR活動も課題を抱えています。その最たるものが、CSR活動そのものが利益を生み出さないことです。CSR活動と企業価値向上とのすり合わせが、CSRを積極的に行う企業の悩みのようなものでした。

議論の中でも考えさせられることがいくつもありました。例えば一期生の陽兵さんは財務データにCSR活動は反映されないのかという鋭い質問をされました。回答は現時点ではできないということでしたが、これは財務諸表に反映されない企業の競争優位に似ている話だと思いました。貸借対照表上に直接は反映されないものの、財務諸表では見えないところで企業価値に影響を与えるものとして、CSR活動が企業価値向上に繋がるのではないかと考えました。

今回様々な方のお話を聞き、授業や日経レポートで聞くCSR活動が、企業ではどのように扱われているのか実情を聞くことができました。また、ここまでCSR活動のことばかり書いてきましたが、テーブルで聞いた話も興味深く学びの多いものでした。お仕事に関する

いろいろな質問をさせていただきましたが、そこから話が広がってなかなか聞けない話を聞いたのはいい経験になりました。当日飛び入りできて、チャンスがあって本当によかった！



本稿は大阪市立大学商学部宮川研究室ゼミ生の活動報告を目的として本学学生が作成したものです。本稿に掲載される個人名や企業名はご本人のご協力を得て掲載許可をいただいています。ただし、内容については執筆者の主観的感想や主張が入っており、事実とは異なる場合があります。本稿の目的以外にご使用にならないようお願いいたします。